

5号機 タービン機器冷却水熱交換器内における冷却水(淡水)の海水側への流出について

平成 17 年 6 月 10 日

発生号機	5号機 (運転中):改良型沸騰水型、定格電気出力138万キロワット
発生年月日	平成17年6月9日
発生時の状況	<p>運転中の5号機において、タービン機器冷却水系統(※1)への冷却水(淡水)の補給量が通常より増えたため、調査を行った結果、2基あるタービン機器冷却水熱交換器(※2)(A)(B)のうち、熱交換器(A)内で冷却水が海水側に流れ出ていることを確認しました。(※3)</p> <p>現在、熱交換器(A)への冷却水の供給を停止したことから、海水側への流出は止まっております。</p> <p>今後、準備が整い次第、熱交換器(A)の点検を行います。</p> <p>熱交換器(A)の点検にあたっては、他の熱交換器(B)でタービン系機器の冷却が可能ことから、発電所の運転に影響はありません。</p> <p>本事象は原子炉の安全性に関係するものではなく、また、淡水であることから放射能は含まれておらず、外部への放射能の影響もありません。</p>
原因	現在調査中。
対策	原因調査の結果により、検討してまいります。
お知らせ基準	「表2-3」に該当します。

※1 タービン系機器(ポンプ、モータ等)の冷却を行うための系統。

※2 タービン系機器(ポンプ、モータ等)の冷却に使用された冷却水を、海水との熱交換により冷却するための設備で、(A)、(B)の2基あります。

※3 冷却水の補給量より評価し、1時間当たり約60リットルの冷却水が海水側へ流れ出ていると推定。なお、冷却水の補給能力は1時間あたり約1万リットルであり、補給能力上も問題はありませぬ。

以上

5号機タービン機器冷却水系統概略図

